秋田県三種町（みたねちょう）

町がイニシアティブを発揮し、地元事業者や幅広い関係者とも協力しながら、住民自らが「くらしの足」を「自分ごと」として考え、支える仕組みを町全体で構築。町内全域の交通空白地を解消するとともに、新たなコミュニティとしても機能し、利用者は着実に増加。

取組の概要

1．多様な主体の実質的参画

●町内公共交通の再編に当たり、町の担当者が60件以上の個人・団体のところに足を運んで協力を呼びかけ、住民共助組織を立ち上げ。公共交通担当課では臨時で職員を増員し、教育・建設・商工観光・健康推進・福祉といった幅広い部局とも連携しながら、町内8地区での「ふれあいバス」、町内拠点を結ぶ「巡回バス」の実証運行の取組を主導。運行に当たり、乗車しきれない利用者が出た場合等には、必要な講習を受けた支所職員が臨時で予備車両を運転する形で協力。

●検討初期から町が既存事業者と何度も丁寧に相談・協議を重ねたことで、事業者も理解・協力。加えて、道の駅や温泉施設はバス利用によるポイント加算、商業施設は停車場所確保や待機場所の提供、病院は帰りのバスの時間に合わせた診察の順番調整等の協力。

2．創意工夫

●ふれあいバス・巡回バスは住民共助組織（7団体）と地元タクシー事業者（2社）が自家用有償旅客運送により運行。バス事業者は既存4路線を1路線に集約。地域の輸送資源を最大限活用して町全域で交通再編に取り組み、町内集落の3割程度あった交通空白地を100%解消。

●全戸配布する時刻表にはJRや民間路線バスの情報についても包括的に掲載し、乗継利便性を考慮したダイヤを構築。住民ニーズに対応するため、隣接市町にも一部乗り入れ。

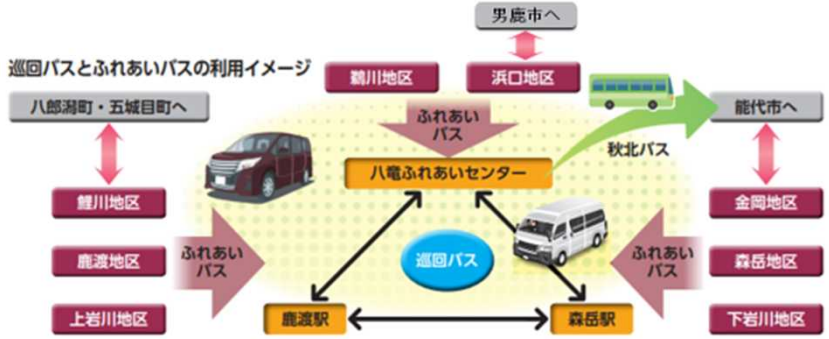
●町の広報誌の中で、交通再編の内容、住民共助組織・ドライバーの紹介、利用者の声、おでかけのモデルプラン、町長・副町長の乗車体験記等、様々な情報を住民に提供し利用を促進。

3．自立性・継続性

●住民共助組織の立ち上げ後は、各組織が自ら担い手・ドライバーを募る体制とし、住民組織の自主性を尊重。各組織における会議のほか、旧町単位や全地区での連絡会等、複数の階層で利用者の声を確認し、ダイヤやルートを随時見直し（2年間の実証運行中に4回の時刻表改正）。

●タクシー事業者への運行委託により経営安定化に寄与。地域課題解決への貢献により乗務員の意識も向上し、プロの目線で他地区も含めた時刻表調整や安全確保について助言。バス事業者についても乗客の集約や経費削減、重要路線への経営資源の集中等のメリット。

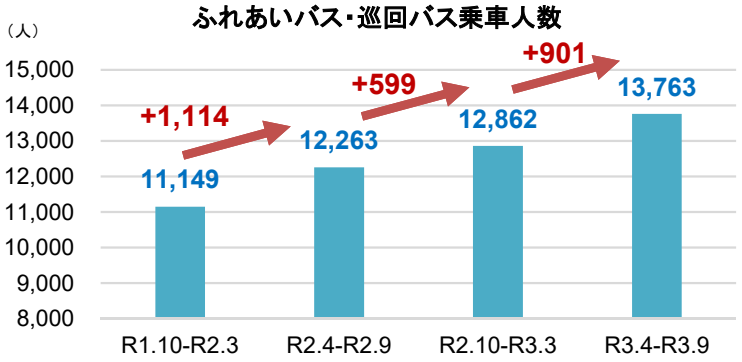
●ドライバーの親切で丁寧な対応が利用者から評判であり、地域住民のコミュニティとしても機能。コロナ禍にあっても利用者は着実に増加しており、通院や買物利用のほか、グループでの温泉利用者が増加するなど、地域の活性化・にぎわいの創出にも貢献。

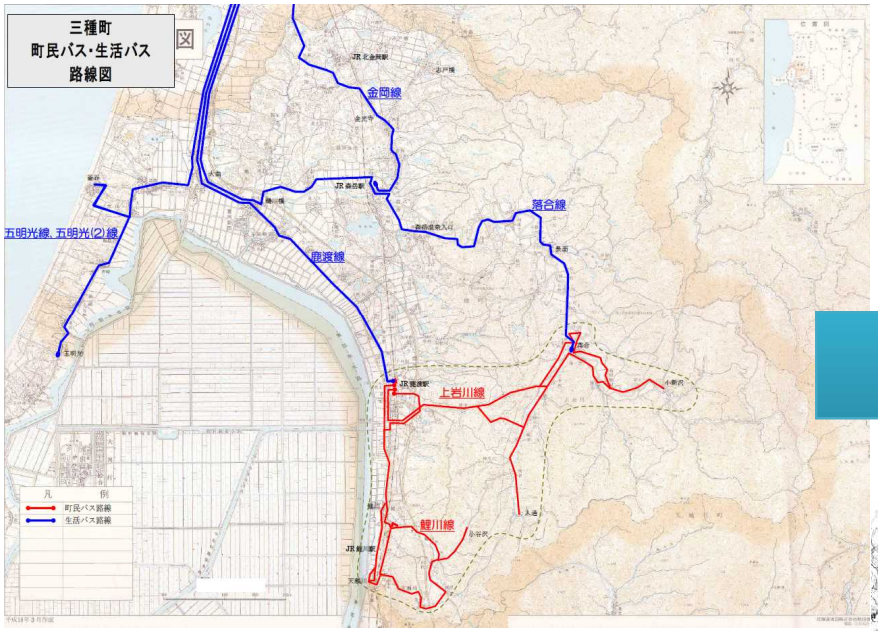
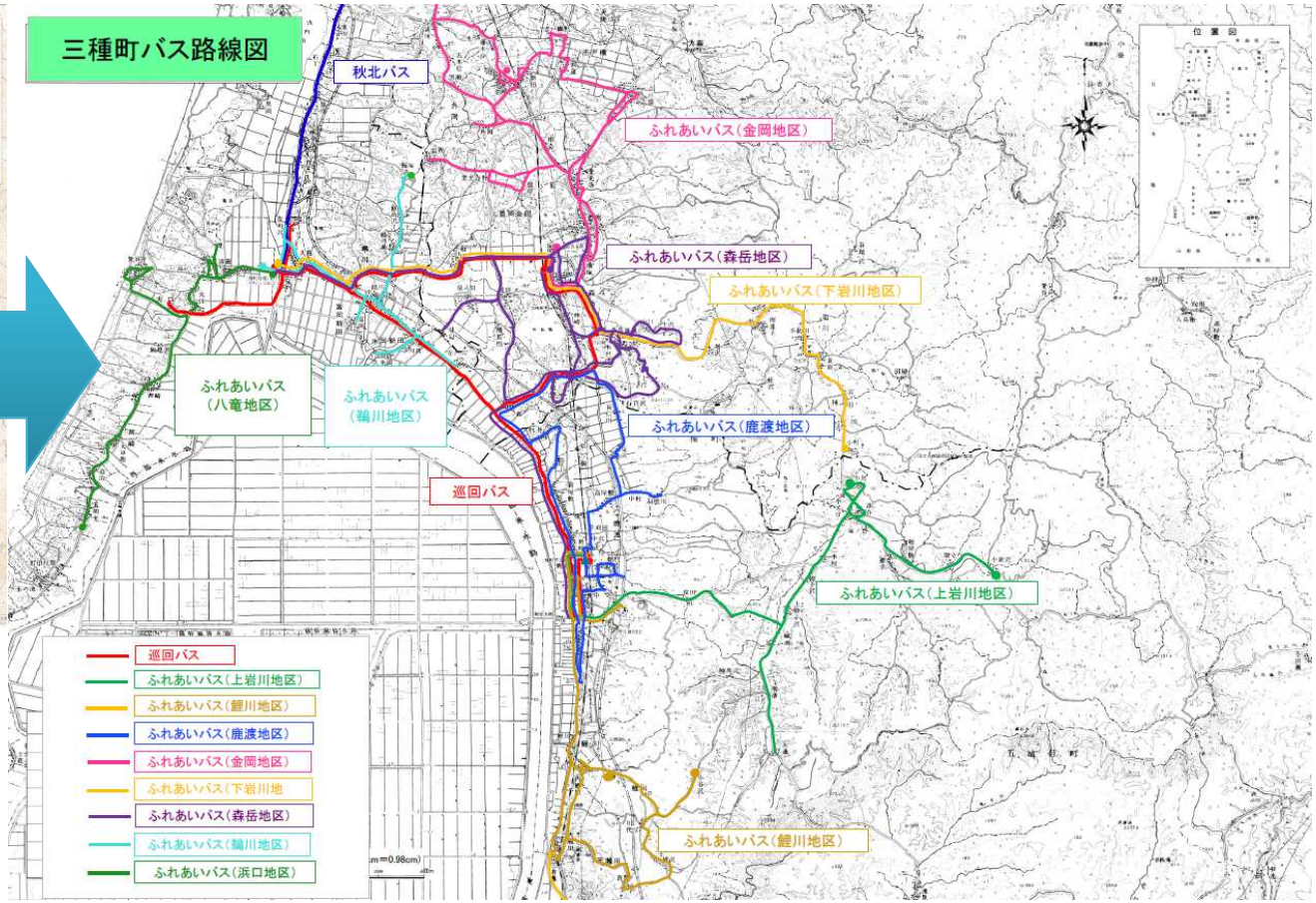
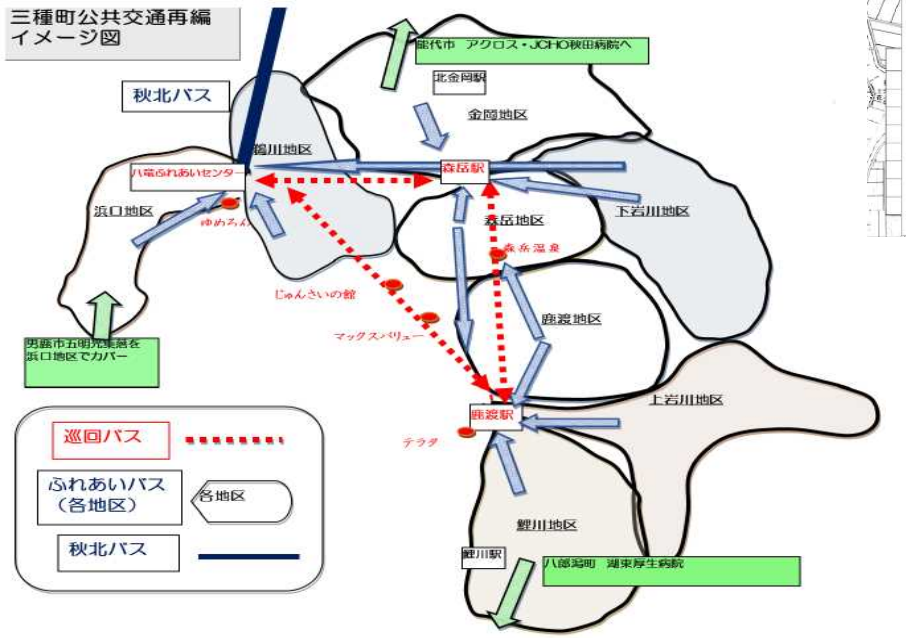


住民主体で「くらしの足」を作り上げる仕組みを構築

町の広報誌に掲載された「みたねバスだより」

「バスに乗って、運転手や乗り合わせた人と話すのが楽しい」との声も



秋田県三種町（みたねちょう）

参考：三種町における公共交通再編